








国立教育政策研究所ではESDを学校教育で進める上での目標を「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けること」として、6つの概念と7つの能力・態度を例に挙げています。

活動をチェックしてみよう!

能力・態度

地域の課題を見だし、解決するために必要な7つの能力・態度のいずれかを身に付けることができますか?

-  ①【批判】
批判的に考える力
例/客観的な情報や公平な判断に基づき、物事を思慮深く思考・判断する力
-  ②【未来】
未来像を予測して計画を立てる力
例/過去や現在に基づき、あるべき未来像を予測し、他者と共有しながら物事を計画する力
-  ③【多面】
多面的、総合的に考える力
例/人や物などのつながりや広がりを理解し、それらを多面的、総合的に考える力
-  ④【伝達】
コミュニケーションを行う力
例/自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、コミュニケーションを行う力
-  ⑤【協力】
他者と協力する態度
例/他者の立場に立ちその考えや行動に共感し、他者と協力・協働して物事を進めようとする態度
-  ⑥【関連】
つながりを尊重する態度
例/人や物などと自分とのつながりに関心を持ち、それを尊重しようとする態度
-  ⑦【参加】
進んで参加する態度
例/集団や社会における自分の言動に責任を持ち、物事に主体的に参加しようとする態度

ESD環境教育プログラム 関連情報

全国から公募したプログラムをもとに作成された
ESD環境教育プログラム

<https://edu.env.go.jp/esd/>

- ESD環境教育モデルプログラムガイドブック1
- ESD環境教育モデルプログラムガイドブック2
- ESD環境教育モデルプログラムガイドブック3
[地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)]

上記モデルプログラムをもとに北海道の特性を盛り込んだ
北海道版ESD環境教育プログラム

[EPO北海道]

http://epohok.jp/katsudou/index.php?content_id=22

持続可能な社会の構築と環境教育の関わりや学校における
環境教育について、ESDなど国際的な動きや学習指導要領改訂による
環境に関する学習内容の充実なども含めて総合的に解説

- 環境教育指導資料～幼稚園・小学校編～
[平成26年:文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター]
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/kankyo_k_n_e.pdf

ESD・環境教育情報サイト

- 環境省 ECO学習ライブラリー
<https://www.eeel.go.jp/>
- 環境省 授業に活かす環境教育
<https://www.eeel.go.jp/env/nerai/index.html>
- +ESDプロジェクト
<https://www.p-esd.go.jp/top.html>

■お問い合わせ先

 **EPO北海道** <http://epohok.jp/>
Environmental Partnership Office Hokkaido

環境省 北海道環境パートナーシップオフィス [EPO北海道]
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル7階
TEL.011-596-0921 / FAX.011-596-0931
E-mail epoh-webadmin@epohok.jp

*EPO北海道は、環境省北海道地方環境事務所と公益財団法人北海道環境財団が、協働して運営するプロジェクトで、持続可能な社会を形成するための協働取組の推進拠点です。

学校と地域 つなぐ・つながる ESD環境教育



平成28年3月
環境省 北海道地方環境事務所







ESDとは

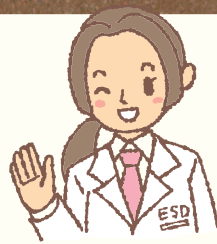
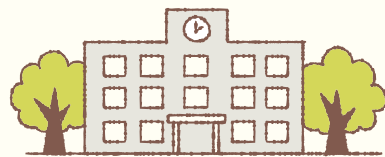
「持続可能な開発のための教育 (ESD : Education for Sustainable Development)」の略。環境、経済、社会の面において、持続可能な未来の構築のために行動できる人の育成を目的としています。

ESDの視点でこれまでの

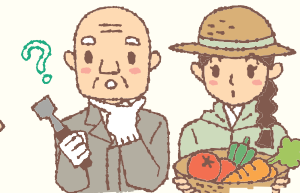
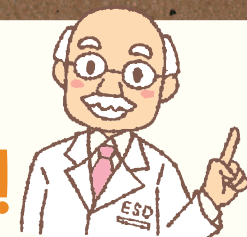
概念

持続可能な社会づくりに関わる
6つの概念のいずれかを扱っていますか?

-  I.多様性
例/社会は多種多様な物事から成り立ち、多種多様な現象が起きていること
-  II.相互性
例/社会は互いに働き掛け合うシステムであり、物質等が循環し、人と人が互いに関わり合っていること
-  III.有限性
例/社会を成り立たせている資源やエネルギーには限りがあること
-  IV.公平性
例/持続可能な社会には、基本的な権利の保障などが、地域や世代を渡って公平・公正・平等であることが大切であること
-  V.連携性
例/持続可能な社会は、多様な主体が状況などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること
-  VI.責任性
例/持続可能な社会は、多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンをもち、それに向かって変容・変革することにより構築されること



学校と地域でつながって ESD環境教育を進めよう!



学校の先生の疑問

…でも、どうやったらつながれるの? 学校と地域のみなさんの疑問にお答えします!

地域のみなさんの疑問

ESDは新しい取り組みなの?

いいえ、新しい取り組みではありません。ESDが伝えようとしているのは、子どもたちがどのように育ち、私たちがどのような人間になっていけばいいのか、もう一度じっくり考えて、取り組んでいこうということ。新たにESDを教えるわけではなくて、これまでの学習活動や先生方の取り組みを「ESDの視点から見なおそう、編みなおそう」ということなんです。

地域や市民団体の方たちの情報は どうやったら得られるの?

信頼できる人や団体を探すのは難しいですね。市町村や、環境のことであれば「環境省北海道環境パートナーシップオフィス」「公益財団法人北海道環境財団」などの中間支援組織に気軽に連絡してみましょう。

そもそもNPOとはどんな団体?

継続的、自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体(Non Profit Organization)のこと。無報酬で活動している団体もあれば、収益事業を行っている団体もあります。また、「NPO法人」という場合には法律に基づく認証を受けていますが、単に「NPO」の場合には法人格の有無は関係なく、任意でつくることができます。

専門家を講師として招きたくても、十分な謝金を用意できない。 どういう解決策があるのかな?

たとえば北海道には、専門家を無料で派遣する制度があります。独自の制度を持っている市町村もあるので、問い合わせてみましょう。

【北海道であれば…】

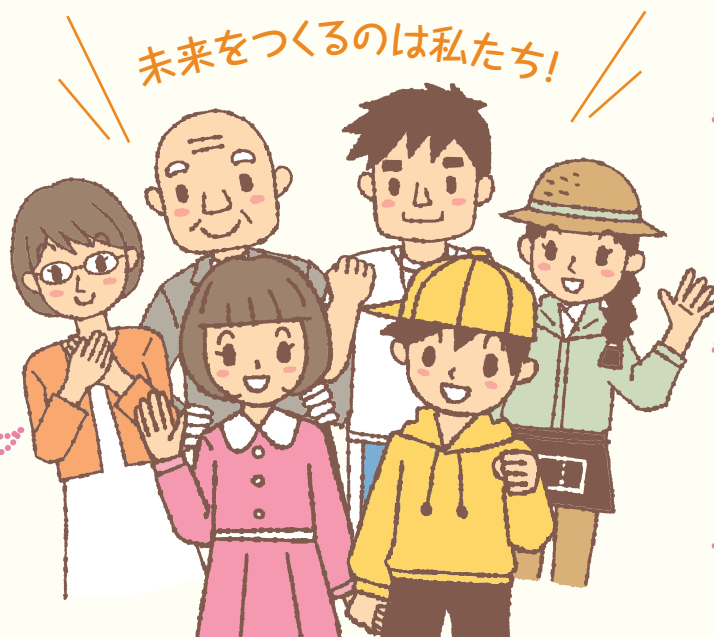
北海道地域環境学習講座 eco-アカデミア

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ksk/academia/>

北海道地球温暖化防止活動推進員

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/tot/suishinin.htm>

さらに詳しいお話や、質問・疑問については「EPO北海道」までお気軽にお問い合わせください!



ESDと環境教育は違うものなの?

ESDは環境分野に限るものではなく、福祉分野や防災なども対象に含むもの。環境の知識を学ぶだけでなく、知識を学ぶことをとおして児童や生徒にどんな資質・能力を身につけてもらえるかが重要ですね。

アクティブ・ラーニングって、どういう意味?

「能動的学修」という意味で、一方的な講義ではなく、児童や生徒が主体的に学習するような形式を取り入れた学習方法のことです。問題解決学習や体験学習、グループ・ディスカッションなども有効な方法だとされています。

学校にアプローチするのは、いつごろがいいの?

先生たちは冬休みの期間中に、次の年度のカリキュラムを考え始めています。だから、学校とつながって取り組むことを考えているのであれば、そのことを念頭に置いて連絡を取るのがいいですね。日中であれば、教頭先生や事務の職員の方々が対応して下さいますよ。足を運んで、顔を合わせて話し合うところから信頼関係は生まれます。ぜひ学校を訪れてみましょう。

学校にはプログラムをどのように提案するのがいいの?

まず、団体のことを理解してもらい、信用してもらうことが大切。自分たちのミッションやこれまで取り組んできたことを紹介できる資料などがあれば心強いですね。プログラムは、授業に組み込みやすい短時間のものから提案してみましょう。先生に内容を体験してもらおう場をつくったり、先生自身が利用可能なワークシートやツールなどをつくって提供したりするのもいいですね。

学校との打ち合わせでは、どんなことを知っているといいの?

学校では、学習指導要領をもとに学習活動が展開されています。提供したいプログラムの内容が、学習指導要領の教科・領域のどの内容と関わりがあるのか、子どもたちがいつ、どのようなことを学んでいるのかを知っておくと、何学年の先生と相談すればいいのかも見当がつかえますね。また、学校は独自の教育目標や経営方針、学年ごとのテーマを持っています。「総合的な学習の時間」も地域の特性を踏まえた学習活動が行われているので、まず詳しく学校のお話を聞いて、自分たちの取り組みとの接点を見つけることが重要ですね。

先生が私たちに期待していることは、なに?

専門知識の提供は十分ありがたいことですが、それだけではありません。学校の授業ではどうしても、教科で分断された知識を学ぶことになりがちです。そうした知識が、私たちが生きている世界とどのようにつながっているのか、どんな人たちが社会の課題に真剣に向き合っているのか、そうした場や人に出会うことは児童や生徒にとって、大きな刺激、学びになります。学校と地域がつながることで、知識と知識がつながり、知識と社会がつながり、未来につながっていきます。それこそがまさにESDが目指す学びです。